

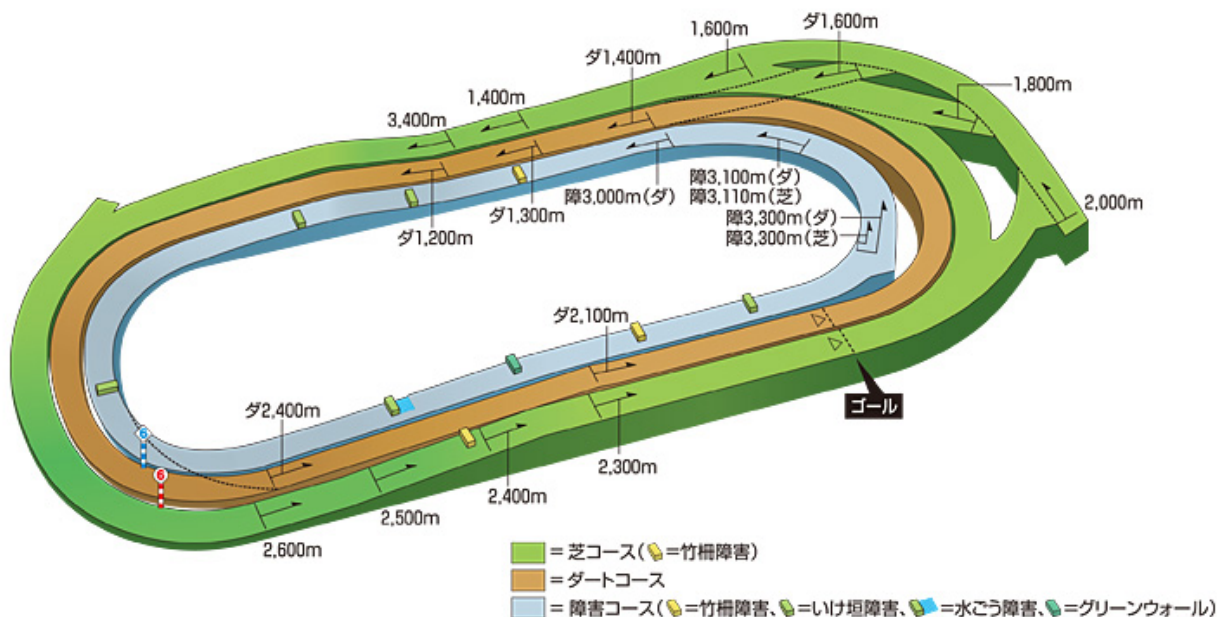


「東京競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



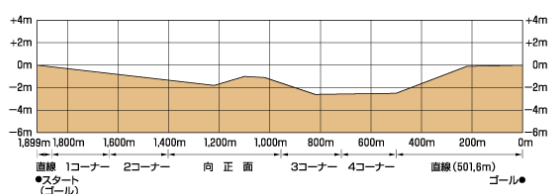
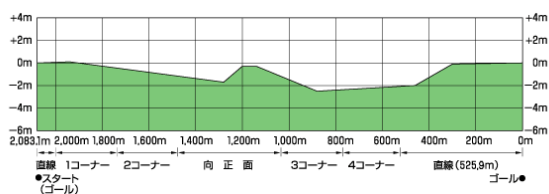
～東京競馬場の特徴～



日本競馬の最高峰である日本ダービーが開催されることでもわかるように、日本競馬の象徴とも言えるチャンピオンコース。日本の競馬生産界はダービーを勝つために馬を作っていますし、東京競馬場こそが近年の日本競馬を形作っていると言っても過言ではないだろう。

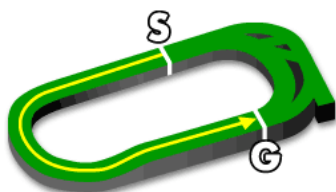
その特徴はなんと言っても全てにおいてスケールが大きいこと。直線の長さは新潟外回りに続いて日本2位ですし、幅員の広さも A-B-C-D コースがとれるほど広い。コーナーは緩やかで紛れが起きにくいですし、直線には坂があるので地力もはっきり問われやすい。トリッキーで紛れが大きい中山コースとは正反対の舞台で、決め手に優れた人気馬が順当に走りやすい舞台だ。

ダートコースでこれだけ直線が長い舞台は東京競馬場だけで、他の競馬場ではあまり要求されない直線での決め手がはっきり問われる印象。そのために東京競馬場だけ走る東京巧者のダート馬も多く、芝とは違って特殊な適性が要求されるコースと言えます。



東京芝1400m

馬場の変化に伴ってマイル寄りの条件に変貌



2010年代前半まではスプリント色の強い舞台で、ダイワメジャー産駒やフジキセキ産駒の馬が先行してそのままなだれ込むケースばかり目立つドル箱コースだった。それが2010年代半ばごろから馬場が変わってきた感じで、差し込みやすい馬場になったことでマイル寄りの条件に変貌した印象。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	24- 17- 17- 106/ 164	14.6%	25.0%	35.4%	212	145
平地・先行	60- 62- 61- 407/ 590	10.2%	20.7%	31.0%	136	101
平地・中団	61- 65- 59- 797/ 982	6.2%	12.8%	18.8%	42	73
平地・後方	19- 20- 27- 679/ 745	2.6%	5.2%	8.9%	30	33
平地・マク	0- 0- 1- 3/ 4	0.0%	0.0%	25.0%	0	47
3F 1位	57- 29- 22- 80/ 188	30.3%	45.7%	57.4%	232	180
3F 2位	29- 28- 17- 108/ 182	15.9%	31.3%	40.7%	127	131
3F 3位	20- 28- 35- 109/ 192	10.4%	25.0%	43.2%	112	145
3F ~5位	24- 36- 32- 241/ 333	7.2%	18.0%	27.6%	135	130
3F 6位~	34- 43- 59-1453/1589	2.1%	4.8%	8.6%	29	32

※東京芝1400mの脚質&上がり順位別成績(2020年1月~)

脚質別の成績を見ると前に行った馬の成績が優秀。一方で上がり順位別の成績を見ると上がり順位が上位の馬になればなるほど好走率が上がっている。これらを参照するに、ある程度前目につけて速い上がりを使えるセンス溢れる馬が走りやすい条件になっているんだろう。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
4	ダイワメジャー	2- 5- 4-13/24	8.3%	29.2%	45.8%	34	180
5	ディープインパクト	2- 2- 3- 9/16	12.5%	25.0%	43.8%	50	89

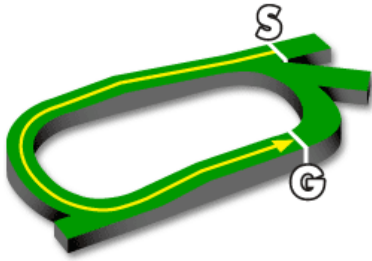
順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ルメール	8- 4- 3-13/28	28.6%	42.9%	53.6%	76	68
2	戸崎圭太	7- 4- 3-19/33	21.2%	33.3%	42.4%	210	122
3	横山和生	5- 3- 1-10/19	26.3%	42.1%	47.4%	91	126
4	横山武史	5- 2- 8-15/30	16.7%	23.3%	50.0%	49	89

<まとめ>

- 以前はスプリント寄りのコースだったが、馬場変化に伴ってマイル寄りのコースに
- ある程度前目につけて速い上がりを使えるセンス良い馬が有利

東京1600m

中盤ラップが緩まずで総合力が問われるマイルのチャンピオンコース



向こう正面の2コーナー地点からスタート。最初のコーナーまでの距離が長く、なおかつ向こう正面の途中から下り坂になるので中盤ラップが緩まないことが多い。しっかりと追走スピードが問われた上で長い直線を乗り切らなければいけませんし、なかなかフロックで好走するのは難しい舞台と言えるでしょう。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	27-	29-	24-	135/ 215	12.6%	26.0%	37.2%	409	183
平地・先行	89-	75-	71-	520/ 755	11.8%	21.7%	31.1%	84	78
平地・中団	73-	83-	83-	894/1133	6.4%	13.8%	21.1%	50	65
平地・後方	27-	26-	37-	821/ 911	3.0%	5.8%	9.9%	34	48
平地・マク	0-	1-	1-	0/ 2	0.0%	50.0%	100.0%	0	315
3F 1位	93-	58-	32-	60/ 243	38.3%	62.1%	75.3%	304	202
3F 2位	47-	46-	47-	118/ 258	18.2%	36.0%	54.3%	174	206
3F 3位	28-	39-	33-	126/ 226	12.4%	29.6%	44.2%	57	134
3F ~5位	29-	32-	49-	321/ 431	6.7%	14.2%	25.5%	170	88
3F 6位~	19-	39-	55-	1740/1853	1.0%	3.1%	6.1%	18	25

※東京芝1600mの脚質&上がり順位別成績(2020年1月~)

だいたい脚質と上がり順位の傾向は東京芝1400mと同じですが、距離が伸びる分で差し馬が届きやすい。

地力と末脚の質が問われる舞台ということもありノーザンファーム生産馬の成績が優秀。東京芝1800mほどではないですが、この舞台はノーザンファーム生産馬を重視した方が良さそうです。そんなノーザン生産馬にルメール、モレイラ、レーンあたりが乗っていたらもう敵なし状態。

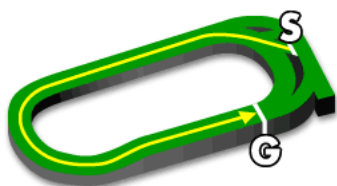
それ以外では外枠の方が有利な傾向が出ており、外めをのびのびと走らせて末脚を活かす競馬が合う舞台です。

<まとめ>

- 中盤ラップが緩まずで総合力と決め手がはっきり問われる
- ノーザンファーム生産馬の成績が比較的優秀（ルメール、モレイラ、レーンは鉄板）
- 外目の枠からのびのびと走らせた方が良い舞台

東京芝1800m

日本の競馬場で最も末脚の質が問われるノーザンファームの庭



スタートしてすぐにコーナーがあるためペースが上がりにくくスローペースになるのはほぼ確定的。前半から中盤まではゆったりと流れて直線での決め手比べになりやすく、日本の競馬場の中でも最も末脚の質が問われるコースと言っている。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	20- 17- 13- 143/ 193	10.4%	19.2%	25.9%	80	106
平地・先行	68- 68- 62- 379/ 577	11.8%	23.6%	34.3%	100	77
平地・中団	57- 61- 66- 582/ 766	7.4%	15.4%	24.0%	47	64
平地・後方	23- 23- 27- 587/ 660	3.5%	7.0%	11.1%	63	36
平地・マク	2- 1- 3- 9/ 15	13.3%	20.0%	40.0%	89	113
3F 1位	79- 47- 25- 54/ 205	38.5%	61.5%	73.7%	323	173
3F 2位	44- 44- 32- 79/ 199	22.1%	44.2%	60.3%	214	159
3F 3位	19- 28- 31- 80/ 158	12.0%	29.7%	49.4%	116	129
3F ~5位	15- 30- 41- 251/ 337	4.5%	13.4%	25.5%	24	68
3F 6位~	13- 21- 42-1231/1307	1.0%	2.6%	5.8%	12	22

※東京芝1800mの脚質&上がり順位別成績(2020年1月~)

マイルよりもさらに差しが決まりやすい脚質傾向になっており、とにかく速い上がりを出せるかが重要な舞台。やはり末脚特化型のコースと言っているでしょう。

順位	生産者	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ノーザンファーム	76- 63- 51-251/441	17.2%	31.5%	43.1%	77	85
2	社台ファーム	23- 20- 17-188/248	9.3%	17.3%	24.2%	94	55
3	ビッグレッドファーム	5- 3- 6- 78/ 92	5.4%	8.7%	15.2%	43	67
4	新冠橋本牧場	5- 2- 1- 8/ 16	31.3%	43.8%	50.0%	311	126
5	下河辺牧場	4- 4- 4- 31/ 43	9.3%	18.6%	27.9%	84	60

※東京芝1800mの生産牧場別成績(2020年1月~)

末脚特化型の舞台となればノーザンファーム生産馬が有利になるのは当然。それにしてもこの舞台はノーザンファーム生産馬の活躍が尋常ではなく、複勝率で43%という凄まじい成績を残しています。

最近はモーリス産駒、ロードカナロア産駒の活躍が非常に目立っており、どちらも複勝率は5割超え。それ以外だとリアルスティール産駒やキズナ産駒の活躍が目立っています。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	モーリス	8- 8- 1-12/29	27.6%	55.2%	58.6%	88	121
2	ロードカナロア	6- 4- 5-15/30	20.0%	33.3%	50.0%	57	74

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
4	リアルスティール	4- 1- 4-13/22	18.2%	22.7%	40.9%	139	71

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
11	キズナ	1- 6- 3-10/20	5.0%	35.0%	50.0%	25	213

ノーザンファーム生産馬を多数育成しており、決め手溢れる馬を育てることに定評がある宮田厩舎が圧倒的な成績を収めていましたが、2023年は少し低迷。一方、最近は毎日王冠をサリオスで2勝している堀厩舎がこの条件を大得意にしています。

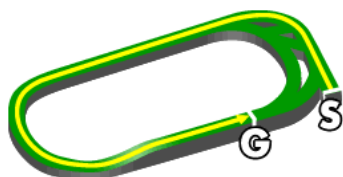
順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	(美)堀宣行	6- 1- 2- 5/14	42.9%	50.0%	64.3%	229	125

<まとめ>

- スローペースが確定的な条件で末脚の質が問われる
- ノーザンファーム生産の馬が圧倒的な成績
- モーリス、ロードカナロア、リアルスティール、キズナが優秀な成績
- 最近堀厩舎の成績が優秀

東京芝2000m

反則的なスタート地点ではあるが、近年は馬場変化あってフェアなコースに



スタート直後にコーナーがあるために内枠の馬が圧倒的に有利ということで有名な舞台だったが、近年の東京芝は差しが決まりやすい馬場になっているおかげで外枠不利の傾向は緩和されつつある感じ。もちろんインが伸びる馬場なら内枠からスッと位置を取れる馬の方が有利なのは当然ではあります。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	26- 21- 10- 78/ 135	19.3%	34.8%	42.2%	145	116
平地・先行	56- 42- 45- 285/ 428	13.1%	22.9%	33.4%	113	91
平地・中団	31- 49- 45- 374/ 499	6.2%	16.0%	25.1%	63	62
平地・後方	16- 15- 28- 362/ 421	3.8%	7.4%	14.0%	22	39
平地・マクリ	1- 3- 2- 8/ 14	7.1%	28.6%	42.9%	88	100
3F 1位	52- 40- 30- 38/ 160	32.5%	57.5%	76.3%	211	154
3F 2位	31- 27- 34- 44/ 136	22.8%	42.6%	67.6%	202	171
3F 3位	20- 29- 20- 54/ 123	16.3%	39.8%	56.1%	155	153
3F ~5位	16- 17- 22- 212/ 267	6.0%	12.4%	20.6%	50	61
3F 6位~	11- 17- 24- 754/ 806	1.4%	3.5%	6.5%	20	25

※東京芝2000mの脚質&上がり順位別成績(2020年1月~)

上がり順位が優秀な馬ほど好走率が高いのは東京芝1800mやマイルと同じだが、このコースは逃げ馬の成績がやたらに良いのが特徴。スタート直後にコーナーがあって隊列がすぐに落ち着くので、あんまりプレッシャーを受けずに逃げられるのが良い感じか。もちろん逃げる馬でも速い上がりが使えないとダメではあります。

東京芝1800mほどではないですが絶対的な末脚を持っている馬が有利な傾向。ノーザンファーム生産の馬の成績はもちろん優秀ですし、王道クラシック血統がよく走っています。

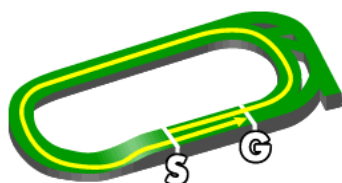
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ドラムメンテ	5- 3- 1-13/22	22.7%	36.4%	40.9%	55	50
2	ゴールドシップ	4- 3- 5-25/37	10.8%	18.9%	32.4%	83	70
3	エピファネア	4- 2- 5-16/27	14.8%	22.2%	40.7%	61	74
4	キズナ	3- 6- 1-14/24	12.5%	37.5%	41.7%	40	192
5	キタサンブラック	3- 0- 2- 6/11	27.3%	27.3%	45.5%	76	61
6	ハーツクライ	2- 5- 7-21/35	5.7%	20.0%	40.0%	26	76

<まとめ>

- 東京マイルや1800mに比べると逃げ馬の好走率が高い
- ノーザンファーム生産馬の成績が優秀
- 王道血統がよく走っている

東京芝2400m

決め手と立ち回りセンスとロンスパ性能が問われる舞台



スタート直後は上り坂。坂を登るとコーナーがあるので前半ペースが流れることはまずない。向こう正面から3コーナーにかけて下り坂になるので、その部分で追い出しが始まることが多くロンスパ勝負になりやすい。中京コースとは違って外を回すような差しでは厳しく、上手く立ち回った上で長く良い脚を使える馬が有利。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	9-	8-	10-	65/ 92	9.8%	18.5%	29.3%	102	119
平地・先行	26-	40-	31-	213/ 310	8.4%	21.3%	31.3%	49	81
平地・中団	38-	33-	31-	296/ 398	9.5%	17.8%	25.6%	80	70
平地・後方	17-	7-	16-	259/ 299	5.7%	8.0%	13.4%	31	44
平地・マク	1-	3-	3-	13/ 20	5.0%	20.0%	35.0%	37	79
3F 1位	55-	18-	20-	15/ 108	50.9%	67.6%	86.1%	372	219
3F 2位	17-	30-	14-	45/ 106	16.0%	44.3%	57.5%	59	165
3F 3位	4-	11-	15-	53/ 83	4.8%	18.1%	36.1%	15	76
3F ~5位	10-	27-	21-	127/ 185	5.4%	20.0%	31.4%	61	92
3F 6位~	5-	5-	21-	600/ 631	0.8%	1.6%	4.9%	11	22

※東京芝2400mの脚質&上がり順位別成績(2020年1月~)

他の長距離コースと同様にとにかく速い上がりを繰り出せる馬が有利。上がり1位を記録した馬の勝率は5割を超えますし、決め手がない馬では好走するのは難しい舞台でしょう。

上手く道中でロスなく脚を溜めて決め手を引き出すことが重要になる舞台で、その末脚を引き出す腕に秀でたルメール騎手が非常に得意にしている舞台。同じく王道血統のドゥラメンテ産駒も圧倒的な成績。ベタに買うべきコースか。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ルメール	9- 6- 1- 7/23	39.1%	65.2%	69.6%	96	99

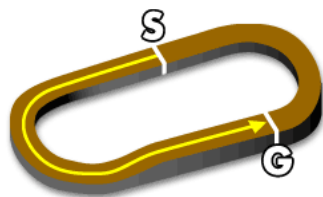
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ドゥラメンテ	4- 4- 5-11/24	16.7%	33.3%	54.2%	49	125

<まとめ>

- 前半スローからロンスパ決め手勝負になりやすい
- 速い上がりを出せる馬の成績が圧倒的（上がり1位が勝率5割超え）
- ルメール騎手やドゥラメンテ産駒が非常に得意としている舞台

東京ダート1300m

短距離戦ではあるが東京コースらしく決め手はしっかりと要求される



JRAの競馬場の中で1300mの距離はこれだけ。1200mとあまり変わらない距離ではあるが、直線の長い東京コースということもあって他場の1200mとは傾向がかなり変わってきます。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	11- 9- 7- 48/ 75	14.7%	26.7%	36.0%	177	100
平地・先行	35- 35- 20- 182/ 272	12.9%	25.7%	33.1%	147	120
平地・中団	24- 28- 40- 342/ 434	5.5%	12.0%	21.2%	50	64
平地・後方	5- 3- 8- 361/ 377	1.3%	2.1%	4.2%	20	20
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					
3F 1位	25- 11- 10- 39/ 85	29.4%	42.4%	54.1%	428	196
3F 2位	16- 14- 12- 39/ 81	19.8%	37.0%	51.9%	185	135
3F 3位	9- 7- 11- 48/ 75	12.0%	21.3%	36.0%	78	140
3F ~5位	16- 20- 16- 107/ 159	10.1%	22.6%	32.7%	74	92
3F 6位~	9- 23- 26- 698/ 756	1.2%	4.2%	7.7%	17	30

※東京ダート1300mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

だいたいダートの短距離戦は逃げ先行馬が圧倒的に有利な傾向が出ますが、このコースはそこまで有利にはなっておらず。中団の馬も同じくらい好走していますし、単純に前残りを狙うのはダメな感じか。

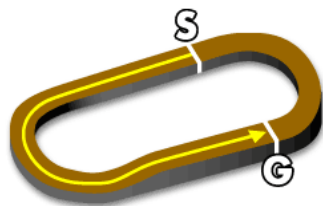
こういう傾向が出ていても各馬の能力差が大きい新馬、未勝利になれば逃げ先行馬の成績が良くなるかと思いきや、この舞台は下級条件でも傾向は変わらず。こちらのイメージ以上にしっかり決め手がある馬が好走していると考えておきたい。

<まとめ>

- JRAの競馬場の中で唯一の1300m条件
- ダート短距離条件の中では逃げ先行馬がそこまで有利ではない特殊条件
- こちらのイメージ以上にしっかり決め手がある馬が好走している

東京ダート1400m

1300mよりも先行有利、根岸ステークスはあくまでも例外



JRAのダート1400m条件の中で唯一のダートスタート。そのために芝スタートが苦手な馬で1400mに適性がある馬はこの舞台だけ走るということも。東京ダート1300mはイメージよりも差しが決まる舞台と前項で書いたが、この東京ダート1400mは逆にイメージよりも前残り傾向が強い。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	61- 40- 24- 159/ 284	21.5%	35.6%	44.0%	236	162
平地・先行	102- 112- 116- 706/1036	9.8%	20.7%	31.9%	98	115
平地・中団	94- 94- 99-1369/1656	5.7%	11.4%	17.3%	54	58
平地・後方	27- 38- 45-1359/1469	1.8%	4.4%	7.5%	20	36
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					
3F 1位	90- 55- 39- 132/ 316	28.5%	45.9%	58.2%	262	201
3F 2位	71- 46- 30- 168/ 315	22.5%	37.1%	46.7%	174	139
3F 3位	39- 44- 42- 198/ 323	12.1%	25.7%	38.7%	108	138
3F ~5位	46- 72- 77- 354/ 549	8.4%	21.5%	35.5%	75	116
3F 6位~	38- 67- 96-2734/2935	1.3%	3.6%	6.8%	25	34

※東京ダート1400mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

明らかに東京ダート1300mよりも逃げ馬の成績が良くなっていますし、勝率を見ても逃げ馬の成績はかなりのもの。新馬、未勝利レベルになるとその傾向はさらに顕著になりますし、基本的には前有利のコースと見ていいでしょう。ただ、根岸ステークスを筆頭に上級条件になるとこのコースは末脚お化けの馬が台頭。下級条件では前有利、上級条件では差しが決まるというイメージを持っておきたい。

好走データという点ではシニスターミニスター産駒が複勝率、回収率ともに優秀な成績になっています。

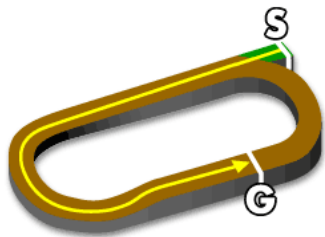
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
3	シニスターミニスター	6- 2- 7-22/37	16.2%	21.6%	40.5%	167	135

<まとめ>

- 東京ダート1300mよりも明らかに前が有利な舞台
- 差し追い込みが決まりやすい根岸ステークスはあくまでも例外
- シニスターミニスター産駒が優秀な成績

東京ダート1600m

冷静に考えれば特殊な舞台、コース巧者が走りやすい



施行回数も多く、距離もマイルということもあってオーソドックスな条件と考えがちだが、JRAの競馬場の中でダート1600m条件はこの舞台だけ。しかも芝スタートで直線も長いですし、他のダートコースとは一線を画するコースで冷静に考えれば考えるほど特殊な舞台だと言えるだろう。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	50- 45- 35- 212/ 342	14.6%	27.8%	38.0%	164	134
平地・先行	156- 137- 116- 838/1247	12.5%	23.5%	32.8%	78	102
平地・中団	103- 111- 141-1502/1857	5.5%	11.5%	19.1%	81	70
平地・後方	33- 48- 52-1485/1618	2.0%	5.0%	8.2%	30	37
平地・マクリ	1- 0- 0- 1/ 2	50.0%	50.0%	50.0%	140	70
3F 1位	136- 69- 48- 142/ 395	34.4%	51.9%	64.1%	437	226
3F 2位	75- 69- 58- 161/ 363	20.7%	39.7%	55.6%	120	161
3F 3位	47- 57- 52- 201/ 357	13.2%	29.1%	43.7%	164	153
3F ~5位	59- 87- 91- 476/ 713	8.3%	20.5%	33.2%	81	124
3F 6位~	26- 59- 95-3051/3231	0.8%	2.6%	5.6%	6	22

※東京ダート1600mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

先行馬と差し馬の好走バランスは東京ダート1400mとあまり変わらないが、特筆すべきは上がり1位の成績が明らかに良くなっている点。それだけ長い直線でしっかりとした決め手を要求される舞台だと言えます。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	31- 28- 16- 80/ 155	20.0%	38.1%	48.4%	170	121
平地・先行	80- 66- 49- 362/ 557	14.4%	26.2%	35.0%	78	105
平地・中団	36- 45- 78- 702/ 861	4.2%	9.4%	18.5%	40	61
平地・後方	7- 16- 14- 721/ 758	0.9%	3.0%	4.9%	31	31
平地・マクリ	1- 0- 0- 1/ 2	50.0%	50.0%	50.0%	140	70
3F 1位	68- 33- 23- 52/ 176	38.6%	57.4%	70.5%	385	255
3F 2位	38- 34- 30- 67/ 169	22.5%	42.6%	60.4%	127	164
3F 3位	19- 29- 22- 82/ 152	12.5%	31.6%	46.1%	116	134
3F ~5位	24- 34- 52- 203/ 313	7.7%	18.5%	35.1%	62	126
3F 6位~	6- 25- 30-1459/1520	0.4%	2.0%	4.0%	1	14

※東京ダート1600mの新馬、未勝利の脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

新馬、未勝利にレースを限定すると逃げ先行馬の成績が良くなるのは当然ですが、それと同時に上がり1位の成績もさらに上昇。もうこの舞台は下級条件から上級条件まで、とにかく速い上がりが使える末脚優秀な馬が走りやすいということでしょう。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1 枠	34- 33- 26-455/548	6.2%	12.2%	17.0%	69	56
2 枠	37- 33- 38-476/584	6.3%	12.0%	18.5%	97	65
3 枠	43- 35- 33-502/613	7.0%	12.7%	18.1%	133	74
4 枠	31- 35- 46-531/643	4.8%	10.3%	17.4%	30	61
5 枠	38- 53- 45-520/656	5.8%	13.9%	20.7%	47	64
6 枠	55- 51- 48-516/670	8.2%	15.8%	23.0%	54	82
7 枠	50- 50- 52-528/680	7.4%	14.7%	22.4%	52	74
8 枠	55- 51- 56-516/678	8.1%	15.6%	23.9%	82	90

※東京ダート1600mの枠順別成績(2020年1月～)

そんな末脚の質が問われる舞台ということもあり、スタート直後の芝部分を長く走れてなおかつ包まれずに直線でスパートをかけやすい外めの枠の方が成績は優秀。この舞台が内枠不利で外枠有利なのは有名な話ですが、こうして実際にデータを見てもその傾向は顕著に見えています。

好走データを見てみると、ルメール、モレイラ、レーンといった騎手の成績が優秀なのは当然だが、川田騎手の成績はイマイチ。この舞台は川田騎手を少し嫌っていいか。一方で松山騎手や坂井騎手の成績が優秀です。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
15	松山弘平	2- 5- 3-11/21	9.5%	33.3%	47.6%	89	108

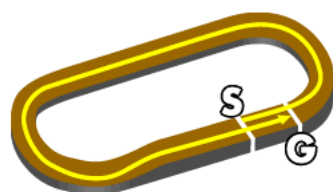
順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
20	坂井瑠星	2- 3- 2- 6/13	15.4%	38.5%	53.8%	80	135

<まとめ>

- J R A では唯一の1600mのダート戦で特殊な舞台
- 決め手に優れていて上がり1位を記録できるような馬が走りやすい
- 包まれずにスパートをかけやすい外めの枠の方が有利
- 総じて特殊な舞台だけにこのコースだけ走るコース巧者が生まれやすい
- 松山騎手や坂井騎手の成績が優秀

東京ダート2100m

上級条件になるほど長く脚を使える末脚タイプがズドンとハマりやすい舞台



ほぼ毎週開催される条件の中ではJRAのダートコースの中でも最長距離。しかも直線の長い東京コースで行われますし、はっきりとスタミナが問われる舞台と見て間違い無いでしょう。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	19- 9- 10- 88/ 126	15.1%	22.2%	30.2%	134	86
平地・先行	58- 56- 48- 258/ 420	13.8%	27.1%	38.6%	264	153
平地・中団	24- 40- 45- 500/ 609	3.9%	10.5%	17.9%	22	52
平地・後方	14- 10- 12- 484/ 520	2.7%	4.6%	6.9%	25	25
平地・マ刈	2- 2- 2- 4/ 10	20.0%	40.0%	60.0%	128	154
3F 1位	49- 33- 15- 36/ 133	36.8%	61.7%	72.9%	288	195
3F 2位	25- 30- 23- 52/ 130	19.2%	42.3%	60.0%	220	195
3F 3位	21- 17- 21- 59/ 118	17.8%	32.2%	50.0%	122	146
3F ~5位	16- 24- 33- 163/ 236	6.8%	16.9%	30.9%	207	127
3F 6位~	6- 13- 25-1019/1063	0.6%	1.8%	4.1%	23	21

※東京ダート2100mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

スタミナが問われてなおかつ直線が長い舞台ということで上がりが速い馬が走りやすいのは当然。上がり1位の馬の複勝率、回収率は共に素晴らしい値ですし、基本的には決め手ある馬を狙うべきコース。とはいえ、このデータを見る感じではこちらが思っているイメージよりは後方からの差し馬の好走率があまり高くない。これは下級条件と上級条件でレース質が変わってくるのが大きく影響している。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	7- 3- 5- 27/ 42	16.7%	23.8%	35.7%	142	101
平地・先行	25- 27- 13- 76/141	17.7%	36.9%	46.1%	394	199
平地・中団	4- 8- 19-180/211	1.9%	5.7%	14.7%	6	58
平地・後方	1- 1- 2-173/177	0.6%	1.1%	2.3%	10	5
平地・マ刈	2- 0- 0- 2/ 4	50.0%	50.0%	50.0%	320	72
3F 1位	18- 12- 5- 11/ 46	39.1%	65.2%	76.1%	460	217
3F 2位	5- 12- 9- 15/ 41	12.2%	41.5%	63.4%	368	301
3F 3位	6- 6- 4- 18/ 34	17.6%	35.3%	47.1%	70	113
3F ~5位	9- 5- 12- 56/ 82	11.0%	17.1%	31.7%	135	126
3F 6位~	1- 4- 9-357/371	0.3%	1.3%	3.8%	43	25

※東京ダート2100mの新馬、未勝利の脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

下級条件でも上がりが速い馬の好走率が優秀なのは変わらないが、未勝利レベルではこのコースで速いペースになることは皆無で、ほぼ全てのレースでスローペースで推移する。そのために後ろから悠長に進めた馬では物理的に届かないことが多く、結果的に前目につけて速い上がりを使える馬の好走率が高い。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	5- 2- 1- 19/ 27	18.5%	25.9%	29.6%	260	100
平地・先行	5- 10- 8- 60/ 83	6.0%	18.1%	27.7%	30	77
平地・中団	6- 8- 11-102/127	4.7%	11.0%	19.7%	24	49
平地・後方	8- 3- 4- 92/107	7.5%	10.3%	14.0%	64	47
平地・マク	0- 1- 0- 2/ 3	0.0%	33.3%	33.3%	0	110
3F 1位	10- 6- 3- 9/ 28	35.7%	57.1%	67.9%	262	210
3F 2位	4- 4- 6- 12/ 26	15.4%	30.8%	53.8%	82	123
3F 3位	5- 3- 7- 14/ 29	17.2%	27.6%	51.7%	66	119
3F ~5位	3- 6- 5- 33/ 47	6.4%	19.1%	29.8%	53	85
3F 6位~	2- 5- 3-206/216	0.9%	3.2%	4.6%	26	19

※東京ダート2100mの3勝クラス&オープンの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

一方で上級条件の脚質データを見てみると中団後方組の成績が分かりやすく上昇。ペースが流れることが多い上級戦ではこちらのイメージ通りにズバツと差しが決まるコースということだろう。途中で何かが動いて前の馬を潰しに行くような展開になるほど差しが決まるが多いです。

東京芝2400mと同じく長丁場で仕掛けどころや折り合いが重要になる条件。もうそんな条件となるとルメール騎手が得意なのは当然で、もうルメール人気になってなお妙味がある状況です。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ルメール	8- 2- 2- 5/17	47.1%	58.8%	70.6%	161	117

種牡馬別の成績を見ると、以前はキングカメハメハ系の成績が非常に優秀でしたが、徐々にバシてきて最近妙味がなくなってきています。

<まとめ>

- 上がり上位の馬が走りやすい舞台だが、イメージほど差し馬優勢ではない
- 下級条件ではスロー必至で前有利も、上級条件では展開次第でズドンと差しが決まる
- ルメール騎手が得意にしている条件